古代大和 歴史紀行 1

即位と晩年の舞台から紐解く 神武天皇は実在したのか？

万世一系といわれる日本の天皇家。その第一代が神武天皇であるが、一方で神武天皇は実在しなかったという声もある。大和における『日本書紀』の舞台を巡る前にその存在を確かめるため橿原を訪ねた。

取材対応

宮崎成由さん（権禰宜）

「2019年の秋頃から、例年以上にお参りに来られる方が増えているように感じます。令和への改元にともない、天皇家の始まり、日本国の成り立ちに関心を強く持つ方が増えているのでしょう。外国人の方も多いですね」

境内を歩いて感じ取った今上天皇とのつながり

第一鳥居をくぐり、長く延びた砂利道の参道を歩く。「日本のはじまりの地」と呼ばれる橿原神宮の境内、その神門をくぐると畝傍山（うねびやま）を背景に外拝殿がある。景色を遮るものがなく、澄み切った空が気持ちいい。

参道で白の作務衣に身を包んだ大勢の人たちとすれ違う。畝傍御陵（神武天皇陵）の清掃奉仕の方々が清掃の前に参拝に来ているという。東京の皇居でもこのような奉仕隊の方々を見かけた。第一代天皇の神武天皇、第一二六代にあたる今上天皇。意外なつながりを実感できる。

それにしても広大な神域だ。

「現在の敷地面積は約53万㎡あります。昭和15年（1940）の神武天皇即位2600年を祝して社殿の修築、境内地の拡張整備などが行われました。明治神宮の外苑建設にならって勤労奉仕で行われたのですが、のべ121万4千余人が建設に参加され、境内に7万6千本の木々が植樹されました。それから80年が経って神官の森になっています」

橿原神宮・権禰宜（ごんねぎ）の宮崎成由さんが外拝殿の前で説明してくださった。ちょうど東京ディズニーランドと同じくらいの面積と聞いて、なるほど理解できた。外拝殿は両脇に長い廻廊を連ねた入母屋（いりもや）造りの建物。中へ入ると、斎庭越しの正面に内拝殿が

畝傍山（うねびやま）

奈良県中西部の橿原市の標高199mの山。『古事記』では畝火山と書かれている。天香久山（あめのかぐやま）、耳成山（みみなしやま）とともに大和三山として知られる。

旅の視点

Q 第一代神武天皇の業績とは？

Q 橿原神宮はなぜ創建されたのか？

Q なぜ「はじまりの地」と言われるのか？

神武天皇と皇后を祀る社 橿原神宮［かしはらじんぐう］

明治23年（1890）創建。神武天皇と皇后の媛蹈鞴五十鈴媛命（ひめたたらいすずひめのみこと）を祀る。神武が即位し、崩御までの晩年を過ごした「橿原の宮」の宮址。

橿原市久米町934

神武天皇

［じんむてんのう］
神武天皇元年～神武天皇76年（在位期間）

神武天皇顕彰碑とは?

神武天皇東征の聖蹟を顕彰するため、昭和15年に建てられた顕彰碑が、大分・福岡・広島・岡山・大阪・和歌山・奈良と東征ルートに沿って点在。写真は奈良県の鳥見山中の碑。

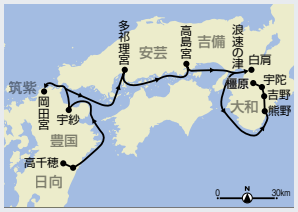
天皇家とのつながりとは?

皇后陛下（現・上皇后陛下）御歌碑。平成28年、神武天皇2600年大祭にあたり、天皇皇后両陛下が橿原神宮を御参拝された時のお気持ちを皇后陛下がお詠みになった御歌。

POINT

神武東征のルートとは?

神武天皇は45歳の時、兄や臣下を集めて国の中心を目指すため東征を計画。九州の宮崎（高千穂）から大分、福岡、広島、岡山、大阪、和歌山を通り、苦難を乗り越えて大和へ着いた。



日本の第一代天皇。西暦に当てはめた場合の生没年は紀元前711年～前585年。日向国に誕生。神日本磐余彦天皇（かむやまといわれびこのすめらみこと）は呼び名。

橿原神宮蔵

神武天皇年表

前711年	日向国（現・宮崎県）に誕生
前696年	立太子（15歳）
前667年	東征開始（45歳）
	海路で瀬戸内海を通り熊野（和歌山）へ
	陸路で八咫烏に導かれ大和へ入り橿原の宮を造営
前661年	媛蹈鞴五十鈴媛（ひめたたらいすずひめ）立皇后
前660年	橿原で即位（52歳）
前585年	神武天皇76年、崩御。享年127歳

※西暦は仮に置き換えたもので、考古学的に検証されたものではありません

神武の存在を確かに感じさせる 橿原神宮の宝物と『日本書紀』の記述

神武天皇の即位から崩御までの75年間とは

畝傍山が本殿の右奥にあり、常に参拝者をやさしく見守っている。

「皇都を開き広めて御殿を造営しよう。国中を一つにして都を開き、天の下を掩いて一つの家とする事（八紘一宇）は、また良い事ではないか。見ればかの畝傍山の東南の橿原の地は、思うに国の塊（真ん中）であるから、ここを治めるとしよう」

『日本書紀』において、神武天皇が詔を発し、都を定めて即位の決意を表明する場面である。神武天皇の事跡を記した『日本書紀』第3巻のうち、東征を綴った部分が5章まで続く。残りの6～7章で宮殿造営と即位の様子が記される。即位から31年、国内巡察に出た神武天皇は、

「ああ、なんと素晴らしい国を得たものだ。蜻蛉が繋がって交わるように、山々が連なり囲んでいるようだなあ」と言った。

この時にニギハヤヒ（饒速日尊）があり、屋根越しに幣殿の千木・鰹木が見える。幕末の安政2年（1855）に建造され、京都御所から移された本殿はその奥にあるが参拝者が入れるのは外拝殿まで。直接見ることはできない。

神武天皇御一代記御絵巻・即位の礼

橿原神宮蔵

紀元元年1月1日（新暦2月11日）、第一代天皇・神武として橿原の宮で即位する様子を描いた絵巻。日本建国を記念し、2月11日が建国記念の日となった由来。

が「虚空にみつ日本国」と賛じてこの地を選んだことが紹介され、日本という国号の始まりも示されている。場面はそれから9年後に飛び、即位42年、神武天皇は役目を終えたかのように崩御、第3巻は完結する。

残念ながら『日本書紀』の淡々とした描写は最期の様子を伝えない。ただ「時年一百廿七歳。葬畝傍山東北陵」（享年127歳、畝傍山の東北の陵に葬った）とあるのみだ。

神武天皇が「橿原の宮」で即位し建国した年の旧暦1月1日、現在の暦である西暦に置き換えると紀元前660年2月11日が日本の建国記念の日。日本の歩みは、その日から起算されていることになる。

「当神宮で1年を通じて行われる祭典のうち最も重要なお祭りは、毎年2月11日の例祭『紀元祭』です。神武天皇が即位された日に行われています。毎年、例祭の前日に勅使がご参向されます。勅使は当日11時に勅使館から進まれ、幣殿に天皇陛下の御幣物を供えられ、御祭文を奏上さ

織田家旧柳本藩邸を移築復元した文華殿

橿原神宮の境内に建つ「文華殿」は、江戸時代末期に建てられた柳本藩（現・奈良県天理市柳本町）の表向御殿。織田信長の弟で茶人として有名な織田有楽斎（うらくさい）の子孫の藩邸。元々は柳本藩の本陣とともに奈良県天理市の黒塚古墳そばに建っていたが、昭和42年（1967）に橿原神宮に移築された。写真は格式の高さを感じる大書院。

織田信長の末裔が築いた江戸時代の御殿が橿原神宮に建っているのも不思議な運命を感じる。信長は尊皇家でもあった。